'80年代後半に米国オクラホマ州のバックヤードビルダーがつくった“パルス”。ホンダの大型バイクのパワートレインを使ったジェット戦闘機型ファンモービルだ。直進時は2輪、傾くとサイドの補助輪が接地する。映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に一瞬、登場する。

'87年BMW320。E30もすでに30年以上を経る旧車である。数年前に亡くなったお父様の愛車を受け継いで、新車と見まがう状態にした。なんていうストーリーが聞けるのも、旧車祭ならでは。

この日の最古参は、1915年ロールス・ロイス・シルバーゴースト。いまなお静粛な7.4ℓ直6をバグパイプがお出迎え。

国立駅から通う無料シャトルバスも、窓の小さい'81年（昭和56年）型の旧車。

2018年はマツダのロータリー第一号、コスモスポーツの生誕から50周年。ゲストとして4台が招かれた。

カミ・ノ・ヤ

リポート

東京西部の人気天神さまに、110年前、日本の自動車時代を予感する日本のセレブが集まっていた。

毎年、谷保天満宮旧車祭が開催されることになった。フェスティバルの主宰者は、国立市在住の自動車愛好家、是枝正美さん。彼が立ち上げたACJは、遠乗會で提案された日本初の自動車倶楽部の名を受け継いだものである。

今回も200台近いクルマが境内を埋めた。タクリー号のレプリカやタクリー号の子ども神輿（みこし）が本殿前に現れると、開会式が始まる。国立市長や谷保天満宮神職による挨拶からスタートし、最後はJR国立駅～谷保駅間の大学通りを参加全車両でパレードする「近乗り会」で終わる。いまや国立市の呼び物のひとつになった旧車フェスは、今回も大盛況だった。ロールス・ロイス・シルバーゴーストの隣にスバル360が並ぶ、そんなお祭りにしたいという是枝会長の運営方針もこのイベントの楽しさを盛り立てている。

私事だが、谷保天満宮は、歩いて30分で行ける筆者の地元にある。子どものお宮参りでお世話になったころ、「やぼてんじん」の境内を旧車が埋め尽くすことなど想像もしなかった。この神社とクルマが深い縁（えにし）で結ばれていたことも、知る由もなかった。新しいクルマだけでなく、古いクルマもまた、次々と歴史をつくっているわけである。

旧車祭の立役者、是枝正美さん。彼が“復興”したACJはすでに500名近い会員を集める。

取材協力：Automobile Club Japan
http://acj1908.web.fc2.com/